

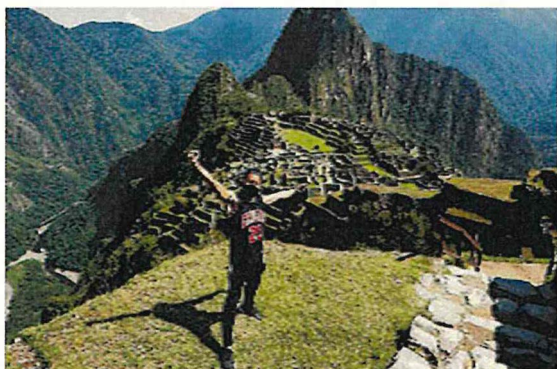
校長室だより



令和2年10月19日
校長 齋藤 瑞穂

過ぎた時間こそ「遺産」 ～マチュピチュを「独り占め」した日本人～

先週こんな見出しの記事が新聞に載りました。「マチュピチュ『独り占め』」。調べてみると、このニュースは世界中に発信され、大きな話題となっていることが分かりました。



マチュピチュを「独り占め」？ 片山慈英士さん

マチュピチュというのは、世界遺産の一つで、南米のペルーという国にあります。今から600年ほど前から500年ほど前の約100年間、南米で大きな力を誇ったインカ帝国の遺跡です。石づくりの神殿や屋敷の跡が、標高2430m、日本でいえば飛騨山脈にある山々の頂上と同じくらいの高さに建てられているというのだから、驚きます。「空中都市」と呼ばれるのも納得ですね。あまりにも高いところにあるせいか、インカ帝国滅亡後、約400年もの間、存在が忘れ去られていたそうです。

さて、この世界遺産、マチュピチュを、「独り占め」したというのは、片山慈英士さんという26歳の日本人男性です。世界一周を自指して旅行していた片山さんは、今年の3月、27か国目の訪問先としてペルーのマチュピチュ村を訪ねました。しかし、ちょうどその日、ペルー政府から、新型コロナ

ウイルス感染拡大を受けて緊急事態発令が発表されたのです。もちろん、そんな状況では、マチュピチュの遺跡観光など認められるはずありません。他にもたくさんいた観光客が、みんなあきらめてそれぞれの国へ帰る中、片山さんは、遺跡観光の再開を信じて村にとどまります。

ヨガを習ったり、ボクシングトレーナーという自分の仕事を生かして子供たちにボクシングを教えたり…片山さんは、7ヶ月の間にすっかり村に溶け込みました。それを地元新聞が、「(コロナ禍の中の)最後の観光客」として記事にすると、評判はたちまちペルー国内に広がり、SNSを通じてたくさんの励ましが届きます。そして、とうとう政府から、マチュピチュ遺跡に入る特別な許可が下りて、今回の「独り占め」になったのです。

遺跡観光後、片山さんはインタビューに答えて、こう語ったそうです。

「一番感動したのは、たくさんの方が助けてくれたこと。」

ここで過ごした時間こそ、遺産だと思おう。」

クイズの答え

23号の「この実何の実？」の答えは「イチヨウの実 (= 銀杏)」でした。茶碗蒸しに入っていますね。ほろ苦い味は好き嫌いが分かれるかも？

保護者の皆様

今週からTEAMSを使い、全校朝会を各クラスへオンライン配信することになりました。感染症による臨時休校や学級閉鎖に備え、杉並区が進めているオンラインホームルームのシステム整備の一環です。これに先立ち、まずは教員間の会議をTEAMSで試行し、操作になれるとともに、子供たちが使用するに当たってどんな問題があるか想定し、解決を図ってきました。次は、いよいよ子供たち一人一人がタブレット端末を操作する段階に進みます。